

## 高齢者教育に関する一考察

### — 東京都特別区における行政が設置する「大学」に着目して —

横浜国立大学大学院 環境情報学府 博士課程後期  
福井 弘教

#### 1. はじめに

教育や教育制度は、通常、乳幼児期以降のこどもに対して開始されて、一定年齢に達するまで行われる、親から子に対しての知恵や作法などの伝授、国が整備したシステムのことを指すのが一般的である。しかし、人生100年時代ともいわれる現代においては、多様な階層への教育、教育制度が求められる。

たとえば、現代のこどもにとって、PCやスマートフォンは不可欠なツールとなっているが、高齢者にとっては必ずしもそうではない。すなわち、新たな製品の登場や技術革新によって教育内容も変容する。

「生涯教育」が提唱されて久しいが、より重要性が増していると考えられる。文部科学省（「平成30年度文部科学白書」）によれば、生涯教育に関して、以下の通り規定され、取り組まれている。

生涯教育とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習のことを指す。

そして、教育基本法第3条においては、生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されており、同法を踏まえ、生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化に向け、新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の検討や、職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進など、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進に取り組んでいる、としている。すなわち、生涯教育とは、幼

児期（場合によっては胎児期）以降、高齢期に至るまで、義務教育を含めて、どの時期においても施される教育であるといえる。

他方、高齢者に焦点を当てた高齢者教育も注目されるようになった。文部科学省（「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会 設置要綱」）は以下の通り、高齢者教育について課題を指摘している。

セカンドステージを自ら設計し主体的に生きることが求められている。そのためには、健康で生きがいのある生活の実現、経済的自立、複雑・高度化する現代社会への対処、地域との絆構築など、広範多岐な内容について継続的に学ぶことが不可欠となっている。社会の側からみても、学びを通じて高齢者が地域社会の課題解決に参画することなどは、高齢社会の課題解決に資するものである。これまで、自治体や民間において様々な形で高齢者に対する学習機会の提供（いわゆる「高齢者教育」）がなされてきているが、参加者が特定の人に限られていることや、世代層によって異なる学習ニーズに見合った学習機会が自治体行政や民間から十分提供されていないこと、あるいは、学習者のニーズと行政側が期待する学習内容が異なるなどの課題が指摘されている。

これまでの経過を整理すると、全世代にわたる生涯教育の機会が整備されているなかで、高齢者教育の重要性も認識されてきたといえる。これについては、久保田（2012）が「1970年代において社会福祉的实践として限定されていた高齢者教育論は、今日の社会的変容により、高齢期の生涯教育そのものについて考える状況へと変化してきた」と指摘しており、高齢者教育の役割は明らかに変化している。それでは高齢者教育のなかで何を学ぶのか。義務教育の場合、学習指導要領などで学習内容を確認できるが、学校教育法等で定める学校ではない「高齢者大学」の場合、学習指導要領などの「指針」は

## 高齢者教育に関する一考察

存在しないことから、個々の「教育機関」（自治体など）によって学習内容には違いがみられることが推察される。吉田（1998）など、特定の高齢者大学についての研究はみられるが複数の高齢者大学を俯瞰した研究は見当たらない。本研究では、自治体によって運営される「高齢者大学」に着目し、どのような指針に基づいて、教育を行っているのか調査を行い、「高齢者大学」の実態についてデータを把握するものである。本研究における「高齢者大学」とは主として高齢者を対象に教育を行う行政が設置する学校教育法等で定める学校以外の「学校」、「大学」と定義する。

## 2. 研究方法

### (1) 調査目的

生涯教育、更には高齢者教育の重要性が認識されつつあるなかで、学校教育法等で定める大学ではなく、自治体が運営する「高齢者大学」もその一翼を担っている。高齢化が進行するなかで、そうした「大学」で学ぶ高齢者も多いと考えられるが、教育内容などの詳細については関係者でなければ不明な点が多い。

本研究では、東京都区部における「高齢者大学」の実態を把握すること、具体的には教育方針、教育目的、教育内容などについて確認する。そして、超高齢化をふまえて「高齢者大学」のあり方を探ることを目的とする。

### (2) 調査概要

①調査対象：東京都特別区（23区）において、「6か月」以上の期間にわたり、主として高齢者教育を目的として行政が設置した「大学」を抽出する。生涯教育のカテゴリーとしては多様な教育機関が設定されている。通常の大学の場合、「6か月間」の履修による単位修得が主流であることから「6か月」以上の期間とした。

②調査期間：2021年7月～2021年9月

③調査方法：

定義に合致する高齢者大学のHPや文献などを中心に

1) 対象者、2) 目的、指針、学習内容について

テキストマイニングを行い、高齢者教育の方向性や、高齢期に求められる教養などを把握する。

テキストマイニングについては、ユーザーローカルのテキストマイニングツールを用いて、以下の分析を行う。説明と結果図はユーザーローカルHPに依拠している（<https://textmining.userlocal.jp/>）。

1) 「単語出現頻度」（本研究では名詞に限定する）

文章中に出現する単語の頻出度を表している。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになる。出現回数だけでなく、重要度を加味した値が「スコア」で、スコアが高い単語は、そのテキストを特徴づける単語である。

2) 「共起キーワード」

文章中に出現するワードの出現パターンが似ているものを線で結び、出現数が多いワードほど大きく表示され、また共起の程度が強いほど、太い線で描画される。

3) 「階層的クラスタリング」

文章中の出現傾向が似たワードを「まとまり」として捕捉できるように樹形図で表した図であり、グループは色分けされて表示される。また、テキストマイニングには出現しない事象についても捕捉して記述する。

## 3. 結果

### (1) 調査対象の高齢者大学

調査対象としては、板橋区、江戸川区、江東区、品川区、世田谷区、千代田区、中野区、文京区、港区の計9区の高齢者大学が該当した【アイウエオ順】（表1）。

唯一、江戸川区のみが年齢規定はないが、2018年6月に別の研究で実施した調査によれば、A学科在籍者の平均年齢が66.0±9.2歳であったこと、学長による学校紹介文<sup>1)</sup>（一部抜粋）に依拠して「高齢者大学」として抽出した。他では60歳以上を対象とした区が7区あり、中野区は55歳以上を対象としている。「区内在住」を応募資格とする区が多い。ほとんどの高齢者大学で、「大学」、「カレッジ」などの名称を使用しており、期間としては品川区、中野区の3年が最長であった。また「大学」卒業後、「大学院」への進学を可能とする高齢者大学（板橋区）もある。期間、時間数、内容などが異なるため、比較は難しいが、いずれの高齢者大学も民間のカルチャースクールなどと比較すると安価で学べることが特徴である。なお、調査対象として該当しなかった14区についても、生涯教育の一環として期間が限定された高齢者教育などは実施されている。

表 1: 6 ヶ月以上の学習期間のある 23 区内の高齢者大学

区分	名称	期間	対象
板橋区	板橋 グリーン カレッジ	2 年 修了後、1 年 制コース有	区内在住, 在勤, 60 歳 以上
江戸川区	江戸川 総合人生 大学	2 年	区内在住, 在勤, 在学, 年齢規定 なし
江東区	江東区 自悠大学	6 ヶ月	区内在住, 60 歳以上
品川区	品川 シルバー 大学	6 ヶ月, 3 年	区内在住, 60 歳以上
世田谷区	生涯大学	2 年	区内在住, 60 歳以上
千代田区	かがやき 大学	6 ヶ月, 1 年	区内在住, 60 歳以上
中野区	なかの 生涯学習 大学	3 年	区内在住, 55 歳以上
文京区	いきいき アカデミア	2 年	区内在住, 60 歳以上
港区	チャレンジ コミュニテ ィ大学	1 年	区内在住, 60 歳以上

出典: 各高齢者大学 HP を参考に筆者作成

## (2) テキストマイニング

名詞	スコア	出現頻度
健康	50.16	46
社会	48.55	40
講座	80.60	34
講義	60.96	31
テーマ	29.62	26
私たち	25.66	23
卒業	10.73	23
長寿	99.07	22
講師	58.01	22
理解	7.04	22

図1: 単語出現頻度(上位 10 件の名詞)



図2: 高齢者大学の特徴を表すキーワード

### 1) 「単語出現頻度」(名詞)

スコアとしては、「出現頻度」が必ずしも高くはない。「長寿」が最も高かった(99.07)。これは、「講座」(80.60)、「講義」(60.96)、「講師」(58.01)など「大学」運営上、不可欠な単語を大幅に上回っていた。「出現頻度」としては、「健康」や「社会」も上位となっており、これらの単語はそれぞれ、スコアも 50.16、48.55 と高かった。上位 10 件の名詞を概観すると、「講座」、「講義」、「テーマ」、「私たち」、「卒業」、「講師」、「理解」という単語は高齢者大学でなくとも、多様な年齢層、学校、カルチャースクールなどにおいて出現が予想される単語である。したがって、「長寿」、「健康」、「社会」が高齢者大学の特徴を表しているといえるだろう(図1、図2)。社会との関わりを維持しながら、健康で、長寿を目指す目的・指針が想定される。

# 高齢者教育に関する一考察

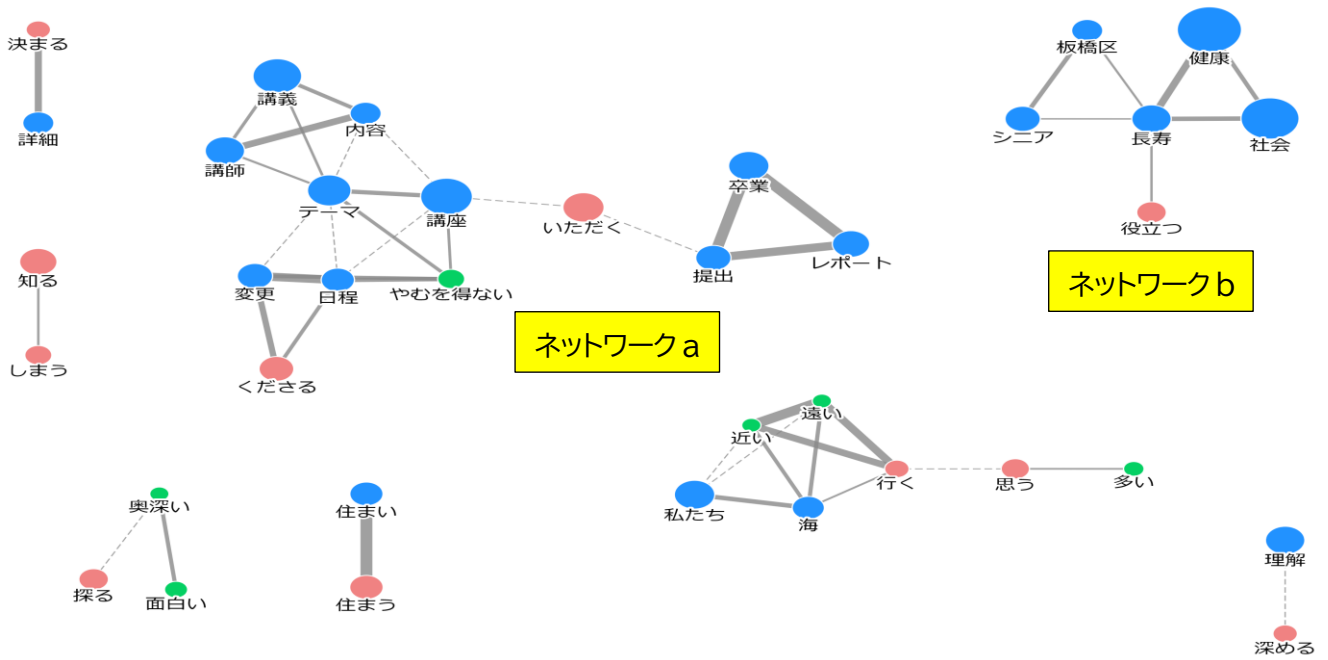


図3:共起キーワード

## 2) 「共起キーワード」

キーワードで繋がった「ネットワーク」としては、「8個」出現している。注目すべきは、大きなネットワークである。最も大きなネットワーク（ネットワーク a）では履修や卒業に関する事象が連結されており、（ネットワーク b）では、「健康」、「社会」、「長寿」が「シニア」、「役立つ」と連結されている。すなわち、高齢者大学では主として「健康」や「社会」について学び、それが高齢者にとって長寿に役立つという理解ができる（図3）。

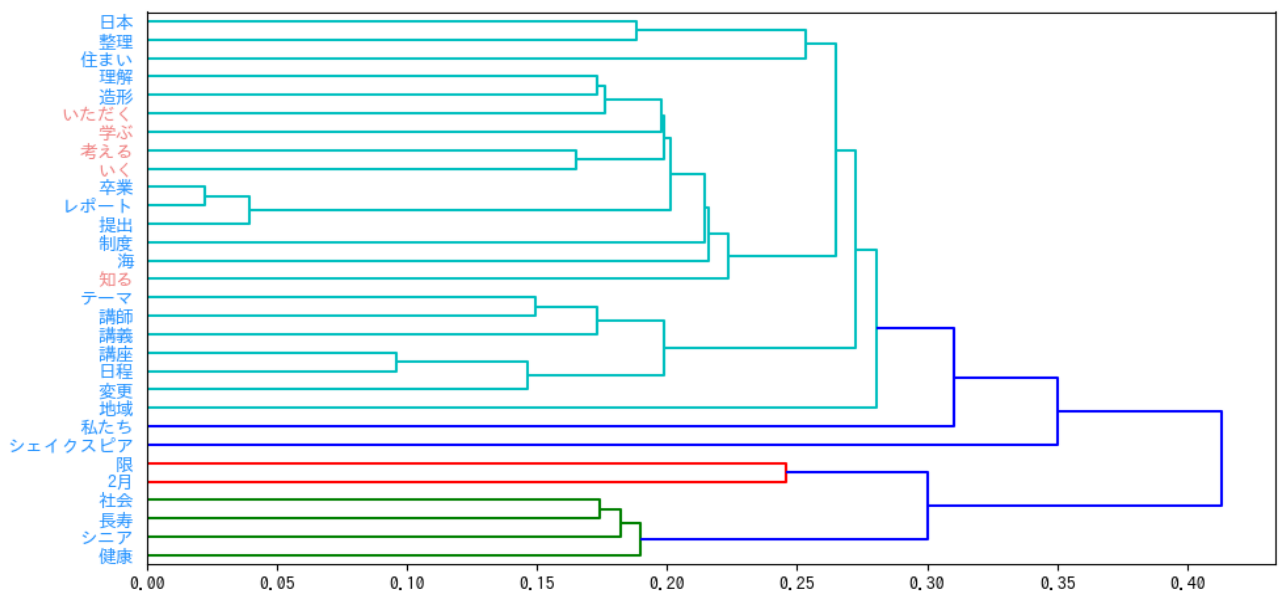


図4:階層的クラスタリング

## 高齢者教育に関する一考察

### 3) 「階層的クラスタリング」

多くの樹形を形成しているが、最上位の単語「日本」から「2月」までは、個々の講座内容や履修に関する樹形となっている。「社会」、「長寿」、「シニア」、「健康」による樹形が高齢者大学の講座内容をふまえた目的・指針を表しているといえよう。「社会」に対して、「長寿」、「シニア」、「健康」が連結されており、「社会」とのつながりが重視されているといえる。

講座内容としては、「社会」や「健康」はもちろん、「日本」、「住まい」、「造形」、「海」、「地域」、「シェイクスピア」などが出現しており、学習内容が多岐に渡っていることがわかる(図4)。

## 4. 考察

本研究における調査により明らかとなった高齢者大学の実態としては以下の通りである。

### ①対象者

区内在住で60歳以上を対象としている区が多かった。江戸川区は年齢規定がないが入学者は高齢者が多数であると考えられる。中野区は55歳以上であった。

### ②目的・指針・学習内容

「長寿」、「健康」という主たるテーマに関する教養の獲得を目的として「社会」とのつながりを意識した指針や学習内容が決定されている。具体的には「文学」、「社会科学」、「自然科学」まで幅広い学習内容となっている。「共起キーワード」では板橋区の出現がみられた。板橋グリーンカレッジでは「卒業研究レポート」を作成するなど専門的研究を行っており幅広い教養に加えて専門性も醸成する高齢者大学(院)もある。

### ③目的の補足

テキストマイニングでは表出しなかったが、ボランティア活動が「必修」となっている江戸川総合人生大学の場合、卒業後もボランティア活動を実践している高齢者も多い。すなわち、卒業後の「生きがい」づくりも目的となっている(生きがいは学長によっても示されている:注参照)。そして、「同窓会」を組織している高齢者大学もあり、卒業後の「つながり」も重視されている(板橋区、世田谷区など)。

定年年齢、年金受給資格年齢の引き上げがあるなかで、高齢者の定義はさまざまであるが(65歳、70歳など)、高齢者大学の出願資格としては比較的若く設定されてい

る。高齢化が進行しているとはいえ、自らの意思で自由に行動できる年齢(健康寿命)を考えると、「若い」設定は適切であるといえる。若く設定することにより、卒業してもなお、「生きがい」、「つながり」のある人生が可能となる。

1978年に設置された千葉県佐倉市の高齢者短期大学校では、1)地域活動の実践、2)郷土佐倉を愛する心の育成、3)40歳以上の学習機会の提供を指針・目的として、公民館に併設する形式により、2年制の「短期大学校」としてスタートした(現在は4年制)。対象としては、市内在住、40歳以上、4年間通学可能で、卒業後は地域活動に積極的に参加できることとしている。あえて、40歳代を入れることによって高齢者と切磋琢磨することを目的としている。

1978年と現在では、時代背景や高齢者の定義なども大きく異なるが、現在も当時の規定を適用している。この学校では高齢者としては若い受講生を含めて、長い期間に渡って教育して、入学以降、卒業後においても地域活動実践を重視している。他地域の高齢者大学においても、今後は「生きがい」や「つながり」を意識した目的・指針を掲げた地域活動を重視する学校が増加することが推察される。

## 5. おわりに

20年以上前に、江上(2001)が、高齢者の要求課題として、地域社会での仲間づくり、高齢者の必要課題として、高齢者自身による疾病予防・健康増進の具体的な実

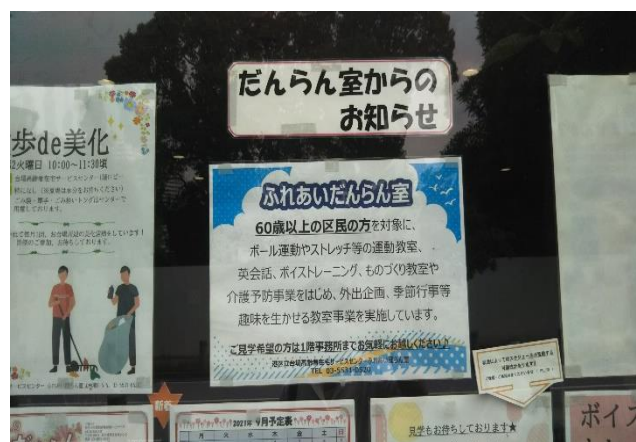


写真1:港区立台場高齢者在宅サービスセンター「ふれあい団らん室」が行っている教室事業(2021年、筆者撮影)

## 高齢者教育に関する一考察

実践を指摘していたが、本研究で対象とした高齢者大学は少なくとも、こうした要求に応じているといえる。

そして、「高齢者大学」以外にも、高齢者教育の場は設定されている。港区のチャレンジコミュニティ大学は区内の明治学院大学（白金）での講義を前提としているが区内在住であっても必ずしも意欲のある高齢者が通学できる環境にあるとは限らない。したがって、区内の他地域（台場）でも教育の場が設定されている（写真1）。

高齢者といっても、体調など老化の程度は人それぞれであり1カ所の拠点のみで高齢者教育を行うことは、公平性の観点からは芳しくない。そして、佐野（2005）が提示したようにギャンブルなど全く異なる視点からの教育も考えられる。官民にかかわらず、必要に応じて時代に即した高齢者教育の機会確保、提供に向けた取り組みが求められるだろう。

また、「1. はじめに」において、「参加者が特定の人に限られていることや、世代層によって異なる学習ニーズに見合った学習機会が自治体行政や民間から十分提供されていないこと、あるいは、学習者のニーズと行政側が期待する学習内容が異なる」などの課題が文科省から指摘されていた。高齢者教育である以上一定の年齢層で区切る必要があるのは当然だが、入学は1回に限定するなどの措置を施せばよい。学習内容についてはHPなどで情報提供がなされており問題はないと考えられる。学習機会については先に述べた通りである。

本研究では、東京都区部の高齢者大学に着目したが、他地域の高齢者大学と比較することで、新たな知見が得られる可能性がある。また、それぞれの高齢者大学には歴史があり時代変遷と共に目的や教育内容にも変容がみられる可能性があるが、今後の研究課題としたい。本研究により、高齢者大学に関する議論の拡張とともに、実践的な示唆を提供するものと期待される。

### 注

<sup>1)</sup> 誰もが健康で長生きしたいと思っているはずですが。健康で長生きするためには次の3つが満たされることが必要です。すなわち「バランスの良い食事」「適度な運動」そして「生き甲斐」です。「生き甲斐」は人により異なると思いますが、私は感動することと感謝されることだと考えています。定年または子育て終了後には、まだ20年から30年もの人生が残されています。ぜひ江戸

川総合人生大学で「生き甲斐」を一緒に見つけないか（江戸川総合人生大学学長による学校紹介文）。

### 【謝辞】

本研究は、法政大学、江戸川総合人生大学の関係者の方々との関連が起点となっている。ここに記して感謝申し上げます。

### 【参考文献】

- ・板橋区健康生きがい部長寿社会推進課シニア事業係（編）（2021）『卒業研究レポート集：板橋グリーンカレッジ大学院』。
- ・江上いすず（2001）「高齢者における要求課題と必要課題について」『名古屋文理短期大学紀要』（26），p.35-43.
- ・江澤和雄（2013）『超高齢社会における高齢者の学習支援の課題』, 国立国会図書館デジタルコレクション.
- ・久保田治助（2012）「日本における高齢者教育論の成立過程— 1970年代の高齢期の学習観—」『鹿児島大学教育学部研究紀要』教育科学編（63），p.87-96.
- ・佐倉市立中央公民館（1997）『四年制高齢者大学校 佐倉市民カレッジの概要』。
- ・佐野茂（2005）「ギャンブル活動と高齢者の人間的成長（共同研究 高齢者のアミューズメント活動に関する一考察 高齢者教育学の視点から）」『大阪商業大学アミューズメント産業研究所紀要』（7），p.35-73.
- ・吉田照子（1998）「地方自治体と大学の連携—品川シルバー大学の事例から（高等教育と生涯学習；地域社会と高等教育）」『日本の社会教育』（42），p.112-123.

### 【WEB サイト】

- ・板橋区，板橋グリーンカレッジ  
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kenko/kourei/kenshu/1021837.html>（2021/8/29）。
- ・江戸川区，江戸川総合人生大学  
<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e026/kenko/fukushikaigo/jukunen/senior/gakusyu/jinsedaigaku.html>（2021/8/26）。
- ・江東区，江東区自悠大学  
[https://fukagawahirano.roukyou.gr.jp/fukagawa/f\\_jigyoe/college/](https://fukagawahirano.roukyou.gr.jp/fukagawa/f_jigyoe/college/)（2021/8/11）。

## 高齢者教育に関する一考察

- ・品川区, 品川シルバー大学

<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/sangyo/sangyo-bunka/sangyo-bunka-senior/hpg000006416.html> (2021/9/15) .

- ・世田谷区, 生涯大学

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kurashi/007/011/index.html> (2021/9/13) .

- ・千代田区, かがやき大学

<https://www.chiyoda-cosw.jp/koureisha-c/study/> (2021/8/15) .

- ・中野区, なかの生涯学習大学

<https://www.city.tokyo-akano.lg.jp/dept/172000/d025337.html> (2021/9/25) .

- ・文京区, いきいきアカデミア

<https://www.b-academy.jp/manabi/course/iki-iki.html> (2021/8/26) .

- ・港区, チャレンジコミュニティ大学

[www.city.minato.tokyo.jp/takanawa/challenge/index.html](http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawa/challenge/index.html) (2021/8/18) .

・文部科学省, 「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会 設置要綱」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/koureisha/1311364.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/koureisha/1311364.html) (2021/8/16) .

・文部科学省, 『平成30年度文部科学白書』、第3章「生涯学習社会の実現」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1421865.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1421865.html) (2021/7/23) .